

【教育長賞】食と私と思い出

安城南部小学校

丹澤 ひまり

私は給食の時間が大好きです。一年生の時は唐揚げや麺類のメニューが大好きでしたが、中学年ぐらいの時から少し大人っぽい友達に影響されてだんだんとサラダが好きになっていきました。さらに高学年になってくると誰も私のことは見ていないってわかっていのに給食を増やすと大食い、太っていると恐れそうに増やすことができませんでした。けれどサラダなら増やしても大丈夫な気がしたのもサラダを好きになった理由の一つです。特に好きなのは海藻サラダです。でも月に一回出るか出ないかぐらいのメニューなので悲しいです。献立表が出ると海藻サラダはあるのかそれは何日かを調べます。その日に近づいてくると同じく海藻サラダが好きの子と喜びを共有します。当日の給食時間、「海藻サラダ増やしたい人ー。」

先生の声を合図に一番に並べるように急ぎます。先に並んだ方がたくさんもらえるからです。私は放送委員なのでお昼を担当する日があります。その日に海藻サラダが出てきた時は本当にくやしかったです。増やしてしまうと放送に間に合わなくなる可能性がありますがあるので増やしたくても増やせなかつたのです。すごくシヨックでした。次に出てくるのは一ヶ月後かもしれないのに。でも放送委員はなりたくてなつたので仕方がないです。

給食の当番はなかなか緊張する仕事です。

全ての食器に均等に、またなるべく余らないように調節しなければならぬからです。だけど減らしたいという子やたくさんよそってくれという子が出てくるためなかなかバットや食缶の中は空っぽにはなりません。むしろ私はよく余らせてしまいます。そんな時いつも先生が助けてくれます。少しでも食品ロスを減らすためにとみんなに呼びかけてくれ、バットや食缶の中を空っぽにしてくれます。たまに自分の力で空になったりすると心の中でひそかに喜んでいきます。また先生にすごいねとほめられるのもとっても嬉しいです。

また、私のクラスはどこかのクラスが給食をこぼしてしまつて足りないという時にはクラスみんながまとまりを見せます。誰かが、

「となりのクラスが食缶にこぼしちやつたからできたら協力してあげてー。」

と呼びかけるとみんなぞろぞろと私の減らしているよ、と協力し始めます。自分のことだけでなく他の人のために協力できるクラスのみんなはすごいと思います。

義務教育があつた三年半ということはおいしい給食が食べられるのも三年半ということになります。一食一食の給食を楽しみながらこれから私の大好きな給食の思い出を増やしていけたらなと思います。